

様式第3号 スプリンクラー設備の概要表記載要領

- | | | |
|---------------|---|--|
| ① 水 | 源 | ・水源について、専用若しくは他の設備等と兼用を選択する。 |
| ② 種 | 別 | ・水源の種別について、該当するものを選択する。 |
| ③ 有効水量(当該設備用) | | ・各消防機関の定めるところにより算出し、記入する。 |
| ④ 構 | 造 | ・水源の構造について、該当するものを選択する。 |
| ⑤ 必 要 水 量 | | ・スプリンクラー設備の水源水量（消防法施行規則第13条の6）に基づく数値を記入する。 |
| ⑥ 認 定 番 号 | | ・ポンプ方式で送水する場合、(一財)日本消防設備安全センターの認定型式番号及び基本型・ユニット型の区分を記入する。 |
| ⑦ 呼 水 措 置 | | ・呼水装置について、設置の有無を選択する。有を選択した場合、有効容量を記入する。 |
| ⑧ 減水警報の表示場所 | | ・呼水措置の減水警報が表示される階及び場所名を記入する。 |
| ⑨ 起動用圧力タンク | | ・起動用圧力タンクの有無を選択する。有を選択した場合、容量を記入する。 |
| ⑩ ポンプ設置場所 | | ・設置する階及び場所名を記入する。 |
| ⑪ 高架水槽方式 | | ・高架水槽方式で送水する場合は、有効落差を記入する。 |
| ⑫ 圧力水槽方式 | | ・圧力水槽方式で送水する場合は、加圧圧力及び内容積を記入する。 |
| ⑬ スプリンクラーヘッド等 | | ・スプリンクラーヘッドの型式毎に感知温度、個数及び補助散水栓の個数を記入するとともに、減圧弁の有無を選択する。 |
| ⑭ 設 備 の 方 法 | | ・該当する方法を選択する。 |
| ⑮ 自 動 警 報 装 置 | | ・自動警報装置として、流水検知装置及び圧力検知装置を選択する。
・流水検知装置を選択した場合、口径及び個数を記入する。
・圧力検知装置を選択した場合、個数を記入する。 |
| ⑯ ポンプ起動方式 | | ・該当する装置を選択する。 |
| ⑰ 送 水 口 | | ・送水口の個数及び設置する階、場所を記入する。 |
| ⑱ 起動感知方式 | | ・該当する方法を選択する。 |
| ⑲ 手動式開放弁 | | ・手動式開放弁が設置されている場合は、○で囲む。 |
| ⑳ 一 斉 開 放 弁 | | ・口径及び個数を記入する。 |
| ㉑ 電 磁 弁 等 | | ・同上 |
| ㉒ 配 管 | | ・立上がり管の口径を記入する。
・配管の材質、止水弁及び逆止水弁の材質を記入する。
・配管の専用若しくは兼用を選択する。
・兼用を選択した場合、(設備)内に該当する消防設備名を記入する。 |
| ㉓ 放水型ヘッド | | ・固定式及び可動式を選択し、個数を記入する。 |
| ㉔ 一 斉 開 放 弁 | | ・口径及び個数を記入する。 |
| ㉕ ポンプ、電動機 | | ・専用若しくは他の設備等との兼用を選択し、仕様を記入する。 |
| ㉖ 認 定 番 号 | | ・ポンプ方式で送水する場合、(一財)日本消防設備安全センターの認定番号及び基本型・ユニット型の区分を記入する。 |
| ㉗ 呼 水 措 置 | | ・呼水装置について設置の有無を選択し、有を選択した場合、有効容量を記入する。 |
| ㉘ 減水警報の表示場所 | | ・呼水措置の減水警報が表示される階及び場所を記入する。 |
| ㉙ 起動用圧力タンク | | ・設置の有無を選択し、有を選択した場合、容量を記入する。 |
| ㉚ ポンプ設置場所 | | ・設置する階及び場所名を記入する。 |
| ㉛ 起動感知方式 | | ・該当する装置を選択する。 |

- | | | |
|---|----------|--|
| ⑳ | 配管 | <ul style="list-style-type: none"> ・立上がり管の口径を記入する。 ・配管の材質、止水弁及び逆止水弁の材質を記入する。 ・配管の専用又は兼用を選択する。 ・兼用を選択した場合、(設備)内に該当する消防設備名を記入する。 |
| ㉑ | 水温上昇防止措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・逃がし配管又は温度検出電磁弁等の措置方法を記入する。 |
| ㉒ | 補助用高架水槽 | <ul style="list-style-type: none"> ・容量を記入する。 |
| ㉓ | 凍結防止措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・措置の方法及び範囲等を記入する。 |
| ㉔ | 減圧調整措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・措置の方法、型式及び範囲等を記入する。 |
| ㉕ | 耐震措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・措置の方法、管径及び範囲等を記入する。 |
| ㉖ | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・その他特別なことがあれば記入する。 |
| ㉗ | ブースターポンプ | <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプの口径、吐出量、全揚程及び電動機の出力並びに補助水槽の容量を記入する。 |
| ㉘ | 補助加圧装置 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプの口径、吐出量、全揚程及び電動機の出力を記入する。 |
| ㉙ | 常用電源 | <ul style="list-style-type: none"> ・AC・DCの区分により、該当するものを選択する。 ・ACを選択した場合、電圧を記入し、電源回路について該当するものを選択する。 ・DCを選択した場合、容量を記入し、充電方式及び使用別について該当するものを選択する。 |
| ㉚ | 非常電源 | <ul style="list-style-type: none"> ・該当する設備を選択する。 ・自家発電設備を選択した場合、出力を記入するとともに使用別を選択する。 ・蓄電池設備を選択した場合、電圧及び容量を記入するとともに、充電方式及び使用別を記入する。 ・非常電源専用受電設備を選択した場合、電圧を記入する。 |
| ㉛ | 配線 | <ul style="list-style-type: none"> ・該当する回路ごとの施工方法を選択する。 ・施工方法で、その他を選択した場合、その方法を()内に記入する。 |
| ㉜ | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・耐火電線等に接続部が生じる場合、その工法名を記入する。詳細については、4.(2)㉑による。 |

スプリンクラー設備の概要表

様式第3号

①水源		専用・兼用		②地下ピット・床置き・その他()		③有効水量(当該設備用) 73.5 m ³		④構造 RC・FRP・その他()		
加圧送水装置	ポンプ方式	⑤ポンプ		専用・兼用		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		必要水量 16 m ³		
	ユニット型	電動機		電圧 200V		100 φ × 900 L/min × 81 m × 18.5 kw		(1.6 m ³ × 10 個)		
	⑥認定番号	⑦呼水装置		有・無		有効容量 100 L		⑧減水警報の表示場所 1階防災センター		
		⑨起動用圧力タンク		有・無		容量 100 L		⑩ポンプ設置場所 地下2階ポンプ室		
⑪高架水槽方式		有効落差 m		⑫圧力水槽方式		加圧圧力 MPa		内容積 m ³		
⑬スプリンクラーヘッド等	閉鎖型(高感度)(温度 °C 個)・(温度 °C 個)		閉鎖型(標準型)(温度 72 °C 950 個)・(温度 °C 個)		減圧弁					
	小区画型(温度 °C 個)・(温度 °C 個)		側壁方(温度 °C 個)・(温度 °C 個)		有・無					
	開放型ヘッド		個・補助散水栓 個							
	⑭設備の方式		湿式・乾式・予作動式		⑮自動警報装置		流水検知装置 100 A 10 個・圧力検知装置 個			
⑯ポンプ起動方式		起動用水圧開閉装置・流水検知装置		その他()		⑰送水口(双口型 1 個)				
⑱起動感知方式		スプリンクラーヘッド・感知器・その他()		⑲手動式開放弁		1階東側玄関前				
⑳一斉開放弁		A 個		㉑電磁弁等		A 個				
㉒配管	管	立上がり管口径 100 A		材質 JIS G 3452		専用・兼用(設備)				
	弁類	止水弁 JIS B 2031		逆止弁 JIS B 2031		その他()				
㉓放水型ヘッド		固定式(個)・可動式(個)		㉔一斉開放弁		A 個				
加圧送水装置	放水型ヘッド用ポンプユニット型	⑳ポンプ、電動機		専用・兼用		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力				
		電圧 V		φ × L/min × m × kw						
	㉖認定番号	㉗呼水装置		有・無		有効容量 L		㉘減水警報の表示場所		
		㉙起動用圧力タンク		有・無		容量 L		㉚ポンプ設置場所		
㉛起動感知方式		感知器・走査型の感知器・その他()								
㉜配管	管	立上がり管口径 A		材質		専用・兼用(設備)				
	弁類	止水弁		逆止弁		その他()				
附属装置	㉝水温上昇防止措置		㉞補助用高架水槽 500ℓ		㉟凍結防止措置					
	㊱減圧調整措置 なし		㊲耐震措置		フレキシブルチューブ 100mm×120cm×2ヶ所		㊳その他			
ブースター	㊴ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽						
		φ × L/min × m × kw		m ³						
		φ × L/min × m × kw		m ³						
補助加圧装置	㊵ポンプ、電動機	φ × L/min × m × kw								
		φ × L/min × m × kw								
		φ × L/min × m × kw								
電源	㊶常用電源	単相・三相 AC 200 V		電灯回路・動力回路						
		DC V AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別 専用・共用		
	㊷非常電源	自家発電設備		単相・三相 AC		DC 220 V 1000 kVA		使用別 専用・共用		
		蓄電池設備		DC V AH		充電方式		トリクル・浮動		
非常電源専用受電設備		単相・三相 AC V								
配線	常用電源回路	露出ケーブル、電線管露出、電線管理設、その他()								
	非常電源回路	耐火電線、電線管露出、電線管理設、その他()								
	警報回路	耐熱電線、電線管露出、電線管理設、その他()								
	その他の回路	IV電線、露出ケーブル、電線管露出、電線管理設、その他()								
④その他	耐火電線・・・ボックス内接続工法		耐火電線・・・テープ巻式直接接続工法							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

様式第3-2号 スプリンクラー設備の概要表（その2）記載要領

- ① 設 置 場 所 ・階ごとの主たる用途及び床面積を記入する。
- ② ヘ ッ ド ・階ごとの放水区域数、種別（製造者名）、名称（溶融温度）、放水区域内のヘッドが一つの制御弁を通じて分岐して取り付けられている個数（総数）及び水平距離を記入する。
- ③ 設 置 免 除 部 分 ・階ごとの用途、区画面積、開口部面積（最大、合計）、防火設備及び内装を記入する。
- ④ ヘ ッ ド 免 除 部 分 ・階ごとの用途及び床面積を記入する。
- ⑤ 代 替 設 備 ・階ごとの設備種別、用途及び床面積を記入する。
- ⑥ 補 助 散 水 栓 個 数 ・階ごとの補助散水栓の個数を記入する。

スプリンクラー設備の概要表（その2）

様式第3-2号

① 設置場所	階 別	地下 2階	地下 1階	1階	2階	3階	4階	5階	6階	階	
	用 途	店舗	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左		
	床 面 積	784.5 ㎡	850.6 ㎡	1080.2 ㎡	1140.3 ㎡	1150.4 ㎡	1150.4 ㎡	1150.4 ㎡	1150.4 ㎡	㎡	
② へ ッ ド	放水区域数	1	1	1	1	1	1	1	1		
	種 別 (製造者名)	閉鎖 (OO)	同左 (同左)	同左 (同左)	同左 (同左)	同左 (同左)	同左 (同左)	同左 (同左)	同左 (同左)	()	
	名 称 (溶融温度)	△△型 72℃	同左型 同左℃	同左型 同左℃	同左型 同左℃	同左型 同左℃	同左型 同左℃	同左型 同左℃	同左型 同左℃	型 ℃	
	個 数 総数(950 個)	98 個	111 個	135 個	142 個	143 個	140 個	121 個	60 個	個	
	水 平 距 離	2.3m	2.3m	2.3m	2.3m	2.3m	2.3m	2.3m	2.3m	m	
③ 設 置 免 除 部 分	用 途							配膳室	客室		
	区画床面積	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	180 ㎡	800 ㎡	㎡	
	開口部 面 積	最大	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	3.6 ㎡	3.6 ㎡	㎡
		合計	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	6.0 ㎡	4.5 ㎡	㎡
	防 火 設 備							煙感連動 特定防火設備	常閉 特定防火設備		
	内 装							不燃	不燃		
④ へ 免 除 部 分	用 途	階段 便所	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左		
	床 面 積	252 ㎡	27.1 ㎡	366 ㎡	372 ㎡	375 ㎡	354 ㎡	366 ㎡	38.1 ㎡	㎡	
⑤ 代 替 設 備	設 備 種 別		窒素 消火								
	用 途		電気室								
	床 面 積	㎡	30 ㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	
⑥	補助散水栓個数	2個	2個	3個	3個	3個	3個	3個	3個	個	
そ の 他											

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。